

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

# 精神保健福祉援助実習で 学び得たこと

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 小山 哲巨

## はじめに

私は平成22年度に精神保健福祉士の資格を取得し、通信教育部を卒業しました。卒業後は精神科・内科・リハビリテーション科の病院に就職し、その後は就労継続支援B型と地域活動支援センター併設型の事業所に転職し現在に至ります。

通信教育部での2年間を振り返ると、多忙な日々の経験もどこかワクワクしながら、自分の目指す職業に出会えたことの嬉しさが支えてくれたと実感しています。スクーリングで先生方の話を聞くことができた影響も大きく、その他様々な方との出会いもあり、今でもその出会いに感謝し助けられながら生きています。

それでは、拙い文章ですが私の実習での様子や、その後の経験をお伝えし、少しでも学生の皆さんの今後の励みにしていただければと思います。

## 実習先と実習指導者との出会い

実習先として何処を希望するか悩まれている方も多いと思います。私の場合は、精神科・神経科・心療内科の病院で行うことができました。病院の特徴としてはアルコール依存症の専門外来と病棟があり、日中は病院の外へ自由に出入りできる開放的な雰囲気のある病院でした。

実習指導者の方は、精神保健福祉士が資格化される以前より精神科病院で相談員をされていた経験豊富な方で、そろそろ退職を考えていた時期に私の実習指導を引き受けていただきました。実習指導者の方にとって最後

の実習生ということもあり、厳しくも多くのことを教え諭していただきました。

## 実習での学びと、今後実習を行う皆さんへのアドバイス ―

精神保健福祉援助実習で学んだことの一つに「関わりを育む」ということがありました。

通信教育部での学習は、自宅での学習が多くなると思います。私の場合も普段レポートを提出する為に、参考書を探しては読み漁るという学習が多くなり、実習開始当初は知識を如何にして行動へ応用するかばかりを考え込んでいました。理論武装こそパワーだという間違った意識もあったと思います。実習指導者の方からは、何度も「頭でっかちは不要」と教えられました。

本来、多くの技術職にとって良い実習とは「知行合一(ちこうごういつ)」であると思います。学習で得た知識は、行為の一部として実践してはじめて意味を成すべきです。では精神保健福祉士の実習で重きを置くべきことは何でしょうか？ 精神保健福祉士は名称独占資格で、資格が無くても相談援助はできますが、資格があってもできない場合があります。援助の対象となるのは目の前にいる人であり、知識と行為が伴っていても、目の前の人「お前は精神保健福祉士でいていいよ」と認めてくれないと援助は成り立たないからです。

クライアントの人生に関わる責任や、自分の言葉の一つ一つが相手に影響していることを思うと、その重さに「下手に言葉を発せられない」と臆してしまうこともありました。そんな時、指導者の方からは、「精神保健福祉士の仕事は感情労働である」と教えていただきました。皆さんは自分の感情がどんな時に動くのか、自分で気づいているでしょうか？ その時に、自分のその感情と感覚と思考(言葉)は連動し、往還し、それらを客

観的に制御できているのでしょうか？ こうしたいわゆる自己覚知も含めた患者や利用者の方との関わり方こそが、実習で学ぶべき最も大切なことであると思います。

現在精神保健福祉の現場で働いていて、確かに基本的な知識は必要と感じますが、先ず相手の方から求められるのは知識よりも「感情を受け止めてほしい、寄り添ってほしい」という気持ちに応えようとしているかどうかという「心構え」であり、それらを含めた人間性です。相談援助の“場”は、相手の方にとって自分の弱さを見せることができ、辛いこと嬉しいことを何でも話せて、居心地の良い空間であることが大切です。患者や利用者の方にとっては実習生も社会資源の一つです。一緒に悩んで自己実現に向かって共に歩んでいける存在として認めてもらえるように、実習という限られた時間の中ですが、関わりを育みながら実のある実習にしてほしいと思います。

## 実習経験後の現在の仕事

---

実習では当事者の方との関わりを通して、実践の前提となる「心構え」を身に付けることができました。倫理要綱を遵守することの意味、いつも変わらぬ誠実さ、関係性を俯瞰的に捉えられる視点、自己決定の尊重、記録することの大切さ……学ばせていただいたことを挙げるときりがありません。人間の尊厳や人権を守ること等、社会的正義というソーシャルワークの根拠となる価値に気づかされる場面にも立ち会うことができました。

実際に現場の仕事をしていると、当事者の方に対する社会的偏見や差別の場面に遭遇する時が幾度とあります。公正で人間的な社会を一気に実現させることは難しく、小石を積み上げるような地道な仕事といえます。悔しさや憤りを感じ「自分に一体何ができるのか」と悩むこともあります。些細な内容から、人生が差し迫るような深刻な内容まで色々な相談を受

け、個別の支援（アセスメントやプランニング、就労の支援など様々）やグループワークをこなす毎日を慌しく送っています。また、就労の事業所である為、職業指導や訓練も行います。また、ハローワークや職業センター、通院されている病院、ご家族をはじめとする外部の社会資源との連携も大切です。業務は多岐にわたりますが、差別や偏見に遭遇した時は実習で学んだ「心構え」を思い出し、今は一つ一つ悩むべきことは悩みながら業務に取り組んでいるといったところです。

この様に書くと「大変な仕事なのでは？」と思われる方もいるかもしれませんが、大変さばかりではありません。昨年は私にとってとても嬉しいことがありました。私が今の事業所で就労支援を始めて約2年、施設としては十数年ぶりに当事者の方が一般企業に就職されたのです（就労継続支援B型に通う方は、「通常の事業所に雇用されることが困難な者」とされています）。厳しい社会の現実にも晒（さら）されてもなお、目標を持ち行動することを諦めなかった姿に大いに感動しました。世の中の常識を良い意味で変えることで、当事者と一緒になって泣いて喜ぶくらい嬉しい感動もこの仕事にはあります。

## おわりに

---

今後、より多くの学生の皆さんが実習や通信教育部で学ばれたことを糧にして、様々な現場で活躍されることを期待しております。私の経験談がその一助になれば幸いです。

末筆ではございますが、この度執筆の機会を与えてくださった先生方、通信教育事務部の方々のご好意に感謝いたします。

# 特別支援学校教員になる 夢に向かって

通信教育部科目等履修生 **村瀬 有紀**

学生 MESSAGE

## 心を決めた日

約2年前の夜、何気なくテレビを見ていると、院内学級で働く教師のドキュメンタリーが放映されていた。勉強を教えるばかりでなく、子どもたちに生きる希望を与えるそのひたむきな姿に、激しく心を打たれ、電光石火のような衝撃を受けた。現在は一般企業に勤務しているが、40代で転職し、英語教員になることが夢であり、また病気の人の為に何かできないかと考えていた。放映後すぐに病弱教育について調べると、特別支援教育をするには、教員免許のほかに、特別支援学校の免許が今後必須になることが解り、福祉分野でトップクラスの定評のある、東北福祉大学の通信教育部へ入学願書を出した。

くしくも願書提出日は2011年3月10日。

## 震災の混乱の中、学生の為に働いて下さった職員の方々

願書が届いたと連絡をいただいたのが震災の数時間前。その後は、大学の職員の方もどれほど大変な時間を過ごされたか想像を絶する。しかし、困難な状況下にあっても私達学生の学習を遅らせないよう、細やかな連絡や配慮をして下さり、私も無事入学の運びとなった。東京での科目修了試験も一日も中止になることなく行ってくださった。このようにサポートして下さる方がいるのだから、一生懸命頑張ろうという強い意志を持つことができた。

## 学習の予定を決める

---

会社での業務も忙しいので、2011年度中に1年で単位をすべて取得するのは困難と判断した。そのため1年間社会福祉学科3年生に在籍し、専門選択科目の単位をすべて修得し一度退学。その後科目等履修生として再入学し、2012年に障害者教育実習の単位のみを残し、実習を受ける計画を立てた。このように学生の生活形態に合わせたプラン作りができるのもこの大学の魅力だと思う。

## レポート作成とスクーリング

---

仕事をしながらのレポート作成は、大変の一言だった。休日のほとんどをレポートで費やし、また出張先にもパソコンを持ち歩き、少しの間を見つけてレポートを書いていた。障害者教育についての知識はゼロに等しかったため、「障害者教育総論」から取り組み、全体像を学んでから各分野の学習を始めた。

レポートの作成手順としては、

- ①課題と視点をよく読み、この課題で何を学ぶべきかじっくりと考える。
- ②文献をインターネットや図書館で探しよく読む。引用できるもの、また自分の視点や論理に今後必要だと思う文章をひろって、ノートを作る。
- ③文章にまとめていく。この時、自分が将来どのように生徒に接していくべきかという考えも盛り込む。

学習を進めながらも、一人では孤独や不安感に襲われるし、机上の学習のみになってしまうので、なるべくスクーリングに参加するよう心がけた。スクーリングは東日本各地で開かれている。私は、東京で「発達障害教育総論」を受講し、夏には1週間訪仙し、「重複障害教育総論」「知的障害教育」「障害者教育実習の事前・事後指導」を受講した。実際の授業で学

んだことは大きく、特に阿部先生、鳴海先生の授業は障害を持つ子どもたちに対する心を教えてもらい、大変感銘を受けた。またかけがえのない友人に出会うこともできた。同じ目標を持つ友人とは、世代を超えてわかり合うことができた。友人の一人から、「東京都の教員採用試験では、論文のみの社会人枠選考がある」という情報もらったのもこの頃である。

また、自宅に居ながらにして授業が受けられるオンデマンドも有効活用をすることをお勧めしたい。私は、「知的障害者の心理」「知的障害教育」を受講した。

このように学習を進めていき、1年間で専門選択科目単位をすべて修得した。

## 障害者教育実習

---

第一希望実習先は病弱特別支援学校であった。実習先は、居住県（神奈川県）で自分で依頼した。病弱学校は数も少なく、受け入れていただけるか不安であったが、ご快諾くださった。依頼は2012年の1月頃に行った。年間計画を決める時期以前に依頼した方がよいと思う。実習先は、病院に併設されており、一般教育に準ずる教育と、また院内学級やベッドサイド授業を行う形態の特別支援学校で、まさに私の理想形態の学校だった。実習を行う上で一番大変だったのは、勤務先に有給休暇を2週間申請することだった。そのような山を乗り越え、2012年10月、教育実習が始まり子どもたちの顔を見たときの感動は、今でも覚えている。しかし、実際病気と闘う子どもたちの苦悩、悲しみに触れ、理想と現場の違いをまざまざと見せられた場面も多々あり、落ち込むこともあった。そんな時、救われたのは生徒たちの笑顔であった。

2週間という短期間でも、多くの生徒とよく話し、笑いあった。生徒は、私の手をよく握ってくれた。入院生活を送る生徒は、先生からの愛情



が何よりもうれしいのではないだろうか。

また、先生方も私を社会人経験者として考慮し、教育現場について社会人目線からの指導を行ってくださり、実習先でも素晴らしい方々と出会うことができた。今でも、教育実習で出会った生徒たちは私の宝物である。

この実習で、無事教育実習単位を修得をすることができた。震災から1年半、ようやくすべての単位を修得できたのだ。

## 教員採用試験に向けて

---

教育実習の準備と共に、教員採用試験の準備もすすめていった。東京都教員採用試験は、1次試験は論文、2次試験は集団面接と個人面接、英語の実技試験である。なかなか準備時間が取れない中、論文対策と共に、今まで自分が提出したレポートを何度も読み返し、教育に携わるうえで何が必要か、ノートに書きだし、自分の考えをまとめた。勉強に多くの時間を割けない社会人での受験で必要なことは、ポイントを絞って、「自分だったら教員として何ができるか」を自分の言葉で言えるようにすることである。社会人としての経験を生かし、社会で生きていくうえで何が必要か、それを自分だったらどのように人に教えるか、考えをまとめておく。これが一番大切だと思う。結果、来年度名簿登録となった。

最終結果発表は、教育実習のさなかだった。まさか自分がと驚いたが、実習校の先生方にも祝福していただき、教員としての心構えも教えていただいた。

以上が私の特別支援学校教員免許取得、そして教員採用試験までの道のりである。

ここまでひたむきに頑張れたのは、ただ生徒たちに会いたい、希望を差し伸べる人になりたいという一心の思いだけである。

周りの家族、大学の方々、友人の支えがあったからこそ今の私があり、感謝の気持ちでいっぱいである。

これからは、相手の心に寄り添いながら指導ができる教員として努力していきたいと考えている。

本当に、素晴らしい学生生活でした。東北福祉大学で学べたことは私の財産です。これからもますますの発展をお祈り申し上げます。有難うございました。